

国里愛彦 (2015).
機関誌編集委員会企画シンポジウム
「論文作成における尺度開発の方法と実際」
日本健康心理学会第28回大会, 桜美林大学.

国里 愛彦

日本健康心理学会第28回大会の「論文作成における尺度開発の方法と実際」では、COnsensus-based Standards for the selection of health Measurement Instruments (COSMIN) と呼ばれる健康に関する質問紙の選択のためのガイドラインを基に、尺度開発に関する解説を行った。健康に関する質問紙は数多くあり、どれを使用すれば良いか判断に迷う時があるが、COSMINを使うことで、それらの質問紙を系統的に評価して、選択することができる。同時に、COSMINを意識した質問紙を開発すれば、必然的に良い質問紙を作成することができる。COSMINで扱う信頼性と妥当性は、従来の心理学研究で扱われてきた信頼性と妥当性と類似したものであるが、反応性や解釈可能性などの新たな概念を導入したり、より信頼性と妥当性について細かく検討している。例えば、論文上であいまいに検討されていたりする構成概念妥当性については、仮説検証という形で明確にデータ取得前の仮説の生成と検証過程が必要とされる。健康に関する質問紙は、アウトカムとして使用されることが多く、この測定が適切でないことと研究自体が無意味になることを考えると、今後COSMINを取り入れた尺度作成論文が国内でも増えることが望まれる。なお、COSMINの反応性や解釈可能性については、「臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会」にて発表した資料をSlideShareにて公開しているので、詳細はそちらを参照いただきたい (参考URL 1)。

また、本発表では、Patient Reported Outcomes Measurement Information System (PROMIS) に関する解説を行った。PROMISは、アメリカ国立衛生研究所を中心に行われている、項目反応理論を用いた患者報告式アウトカム尺度の項目バンクを作成するプロジェクトである。項目反応理論を用いることで、参加者の特性値と項目の持つ困難度や識別力などの母数を分離して推定することができる。これによって、項目反応理論の検討を経た項目バンクを作成し、項目バンクを活用したコンピュータ適応型テストなどの運用も可能になる。つまり、参加者の項目への反応に合わせて、参加者の特性値を最も推定できる質問項目を提示して回答を求めることが可能に

なり、短時間で精度の高い測定が可能になる。現段階で日本語版PROMISは作成されていないが、患者の利便性を考えると、国内での導入が望まれる。なお、PROMISについても、「臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会」にて発表した資料をSlideShareにて公開しているので、詳細はそちらを参照いただきたい（参考URL 2）。

近年、心理学における研究の再現性について、多方面から問題が提起されてきているが、その問題の1つとしては、測定指標の精度の低さの問題もあるかと思われる。雑に作成された質問紙が乱立するのではなく、構成概念の設定の段階から丁寧に検討されて作成された項目バンクを元に、短時間でかつ精度高く患者の健康状態を測定する質問紙の作成がなされることを心から願う。

【参考URL】

1. <http://www.slideshare.net/YoshihikoKunisato/ss-37480140>



2. <http://www.slideshare.net/YoshihikoKunisato/promisirt>

